適性検査Ⅰ

注　意

1　問題は 1 のみで、5ページにわたって印刷してあります。
2　検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
3　声を出して読んではいけません。
4　答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
5　答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
6　受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立立川国際中等教育学校

1 次の文章を読み、あとの問題に答えなさい。

（*印のついている言葉には本文のあとに（注）があります。）

皆さんは、雑草を育てたことがありますか？

雑草なら庭にいくらでも生えている……と思うかもしれませんが、そうではありません。実際に、種を播いて、水をやって、育てるのです。

雑草は勝手に生えてくるものであって、雑草を育てるなんておかしいですよね。

私は雑草の研究をしています。そのため、研究材料として雑草を育てることがあります。

雑草は放っておけば育つから、雑草を育てるのは簡単だ、と思うかもしれません。ところが、それは大間違いです。雑草を育てるのは、じつはなかなか難しいのです。

雑草を育てることが難しい理由は、私たちの思うようにいかないからです。

何しろ、種を播いても芽が出てきません。

野菜や花の種であれば、種を播いて水をやり、何日か待っていれば芽が出てきます。ところが、雑草は違います。種を播いても水をやっても、いくら待っても芽が出てこないことがあるのです。

野菜や花の種は、人間が発芽に適していると考えた時期をあらかじめ*想定して、改良されています。そのため、野菜や花の種は人間のいうとおりに芽が出るのです。一方、雑草は芽を出す時期は自分で決めます。人間のいうとおりには、ならないのです。

また、野菜や花の種であれば、一斉に芽を出してきます。ところが、雑草は芽が出たとしても時期がバラバラです。早く芽を出すものがあるかと思えば、遅れて芽を出すものもいます。忘れた頃に芽を出してくるものもあれば、それでも芽を出さずに眠り続けているものもあります。やっと芽を出しても、足並みが揃っていません。

早く芽を出すせっかちもいれば、なかなか芽を出さないのんびり屋もいます。このバラバラな性格は、人間の世界では「個性」と呼ばれるものかもしれません。

雑草はとても「個性」が豊かです。そういえば、聞こえはいいですが、結局バラバラで扱いにくい存在です。そして、個性ある雑草たちは育てにくい存在でもあるのです。

それにしても、どうして、雑草は芽を出す時期がバラバラなのでしょうか。

植物にとっては、早く芽を出したほうが成長するためには有利な気もするのに、どうして雑草には、ゆっくりと芽を出すような性格のものがあるのでしょうか？

皆さんは、「*オナモミ」という雑草を知っていますか。

トゲトゲした実が服にくっつくので「くっつき虫」という別名もあります。子どもの頃に、実を投げ合って遊んだ人もいるかもしれません。

オナモミの実は知っていても、この実の中を見たことのある人は少ないのではないでしょうか。

オナモミの実の中には、やや長い種子とやや短い種子の二つの種子が入っています。

二つの種子のうち、長い種子はすぐに芽を出すせっかち屋さんです。一方の短い種子は、なかなか芽を出さないのんびり屋さんです。

オナモミの実は、性格の異なる二つの種子を持っているのです。

それでは、このせっかち屋の種子とのんびり屋の種子は、どちらがより優れているのでしょうか。

そんなこと、わかりません。

早く芽を出したほうが良いのか、遅く芽を出したほうが良いのかは、場合によって変わります。

「善は急げ」というとおり、早く芽を出したほうがいい場合もあります。しかし、すぐに芽を出しても、そのときの環境がオナモミの*生育に適しているとは限りません。「急いては事をし損じる」というとおり、遅く芽を出したほうがいい場合もあります。だから、オナモミは性格の異なる二つの種子を用意しているのです。

雑草の種子の中に早く芽を出すものがあったり、なかなか芽を出さないものがあったりするのも、同じ理由です。

早いほうがよいのか、遅いほうがよいのか、比べることに何の意味もありません。オナモミにとって、どちらもあることが大切なのです。

芽を出すことが早かったり遅かったりすることは、雑草にとっては、優劣ではありません。雑草にとって、それは個性なのです。

しかし、早く芽を出すものがあったり、遅く芽を出すものがあったりすると、いろいろと不都合もありそうです。芽を出す時期は揃っているほうが良いような気もします。

バラバラな個性って本当に必要なのでしょうか？

バラバラな性質のことを「遺伝的多様性」といいます。

個性とは「遺伝的多様性」のことです。多様性とは「バラバラ」なことです。

しかし、どうしてバラバラであることが良いのでしょうか。

皆さんは、学校で答えのある問題を解いています。問題には正解があり、それ以外は間違いです。

ところが自然界には、答えのないことのほうが多いのです。

たとえば、先に紹介したオナモミに代表されるように、雑草にとっては、早く芽を出したほうがいいのか、遅く芽を出したほうがいいのか、答えはありません。

早いほうがいいときがあるかもしれませんし、じっくりと芽を出したほうがいいかもしれません。環境が変われば、どちらが良いかは変わります。どちらが良いという答えがないのですから、「どちらもある」というのが、雑草にとっては正しい答えになります。

だから、雑草はバラバラでありたがるのです。どちらが、優れているとか、どちらが劣っているという優劣はありません。むしろ、バラバラであることが強みです。

そして、すべての生物は「遺伝的多様性」を持っているのです。

じつは人間の世界も、答えがあるようで、ないことのほうが多いのです。

本当は何が正しくて、何が優れているかなんてわからないのです。

「もっと早くやりなさい」とスピードを評価してみたかと思うと、「もっとていねいにやりなさい」とゆっくりやることを褒めだしたりします。

人間の大人たちは答えを知っているようなフリをしています。そして、優劣をつけてわかったようなフリをして、「これは良い」とか、「それはダメだ」と言っています。

しかし、何が優れているかなんて、本当は知りません。

いや、本当は、どれが優れているということはないのです。

それを知っているからオナモミは、二つの種子を持っているのです。

しかし、不思議なことがあります。

先に書いたように、自然界では多様性が大切にされます。それなのに、タンポポの花はどれもほとんど黄色です。

紫色や赤い色をしたタンポポを見かけることはありません。タンポポの花の色に個性はありません。これはどうしてなのでしょうか。

タンポポは、主にアブの仲間を呼び寄せて花粉を運んでもらいます。アブの仲間は黄色い花に来やすい性質があります。そのため、タンポポの花の色は黄色がベストなのです。

黄色が一番いいと決まっているから、タンポポはどれも黄色なのです。

しかし、タンポポの株の大きさはバラバラです。大きなタンポポもあれば、小さなタンポポもあります。葉っぱの形もさまざまです。ギザギザに深く切れ込んだ葉っぱのものもあれば、切れ込みのない葉っぱのものもあります。

どんな大きさが良いかは環境によって変わります。葉っぱの形も、どれが良いという正解はありません。

そのため、タンポポの大きさや葉っぱの形は個性的なのです。

個性は当たり前のようにあるわけではありません。個性は生物が生き残るために作り出した戦略です。個性があるということ、つまりはなぜバラバラであるかといえば、そこに意味があるからなのです。

（稲垣栄洋『はずれ者が進化をつくる』による）

〔注〕

想定――仮にそうであると考えること。

オナモミ――キク科の植物。

善は急げ――よいと思ったら、すぐやりなさい、ということわざ。

生育――木や草が育つこと。また、育てること。

急いては事をし損じる――あまり急いでやると、失敗しやすいものだということ。

優劣――優れていることと、劣っていること。

アブ――ハエに似ていて、やや大型のこん虫。めすは人や馬・牛などの血をすう。

〔問題1〕「私たちの思うようにいかない」とありますが、これはどのようなことですか。四十字以上五十字以内で説明しなさい。

〔問題2〕「雑草の種子の中に早く芽を出すものがあったり、なかなか芽を出さないものがあったりする」とありますが、これはなぜですか。筆者が考える理由を五十字以上六十字以内で説明しなさい。

〔問題3〕「なぜバラバラであるかといえば、そこに意味があるからなのです」とありますが、これはどのようなことですか。本文全体を通して考え、まとめなさい。また、そのことを「人間の世界」に置きかえると、どのようなことが当てはまりますか。見たこと、聞いたことなどの中から具体的な一例をあげ、今後どのように生かしていくかについて、あなたの考えを四百六十字以上五百字以内で説明しなさい。ただし、あとの条件にしたがうこと。

条件　次の三段落以上の構成にまとめて書くこと

① 第一段落では、「なぜバラバラであるかといえば、そこに意味があるからなのです」ということがどのようなことであるかを説明する。

② 第二段落以降では、「人間の世界」に置きかえたときに当てはまることを述べる。

③ 最終段落では、②で述べたことを今後どのように生かしていくかについて述べる。

なお、次のきまりにしたがって書きなさい。

《きまり》

段落をかえたときの残りのますめは字数として数えます。

ただし、〔問題1〕・〔問題2〕は、一ますめから書き、段落をかえてはいけません。

、や。や「」なども、それぞれ字数に数えます。